

まるこやま

第76号

令和4年11月21日

〒699-1251
雲南市大東町大東2419-1
大東交流センター
TEL(0854)43-2130



E-mail:daito-c@daito-center.org
http://user.yoitoko.jp/daito-c/

大東交流センターだより

発行：大東地区自治振興協議会

10月15日

加多神社 秋の例大祭



五穀豊穰

家内安全

病氣平癒

厄除開運

御寶前
大木原中
平成三十三年十月十五日



「課題先進地」から「課題解決先進地」へ向けて

◆ 石飛市長との意見交換会 ◆



就任以来2回目となる石飛市長と大東町地域自主組織連絡協議会との意見交換会が11月2日に大東総合センターでありました。それぞれの地域自主組織から「イノシシ対策や住宅団地の整備、上下水道の整備、基幹道路の整備等の課題があるが、これからどのようにして持続可能な定住環境、公共交通を確保していただけるのですか。」との質問に、「それぞれ重要な施策と位置づけて各部署で取り組んでいますが、定住基盤整備としてはまず道路整備だと思います。災害復旧事業があと2、3年かかりそうで

すが、定住対策も待たなしですので、引き続き国や県に対し道路整備に向けた財源確保を働きかけていきます。」との回答でした。

また大東地区からは、「雲南市誕生から満18年を迎えるが、人口は合併前から約1万人減少している。今後の人口対策、定住対策は、また観光振興はどう考えておられますか。」との質問に、「人口減対策としては、子どもを産み育てる数を増やすことが重要と思う。高校を卒業して県外へ出た人に戻ってもらうなど現役世代の層を厚くして、合計特殊出生率2.0以上を目指したい。また、地域を守る観点でいうと、高齢者がいつまでも活躍できる健康づくりに取り組んでいる。一方、定住に向けた利便性ばかりを追い求めるには限界があるので、田舎暮らしでの生活の豊かさ、価値観の変革を求めていきたい。観光振興については、「スサノオ」とか、「たたら」をテーマにした広域観光の取組を考えている。また、海外の人が興味を持っている「七夕祭り」「神楽」「ホタル」などの地域資源を磨きながら同様に取り組んでいきたい。」との回答でした。

最後に事務局より「少人数の意見交換会も設定できますので相談ください。」との案内がありました。

にがおえて
こんにちわ!

「それゆい大東」ドンドコ

大東町東阿用 三原 修三



(絵:大東町東町北 細田 滋)

平成8年前後だったと思いますが、当時の大東町役場企画財政課の担当だった先輩から、かみくの桃源郷のマスコットになるキャラクターを作ってもらえないかとの依頼を受けました。

当時、日本全国どの町でも「地域活性化」という謳い文句のもと、様々な取り組みがされており、わが大東町でも、かみくの桃源郷のほか、ゆとりの里や桂荘、大仁大規模農道、塩田ダムといったプロジェクトに取り組まれておりました。

かみくの桃源郷は長谷川の清流と豊かな自然に恵まれ、その昔には、仙人も住んでいたという言い伝えから、仙人をモチーフとしたキャラクターをと考えました。世俗から離れた仙人でありながらも、どこか愛されるようなキャラクターをと自分なりにイメージしてできあがったのが、この「仙人君」です。前号、このコーナーで紹介された岸野俊一さんほど、イラストに長けておらず、自信はなかったのですが、せっかくの依頼だということで、苦労して作った記憶があります。

今でもこのキャラクターは、久野地区振興会の皆様によって有効活用していただいております、生き続けてくれていることを嬉しく思っています。



仙人君



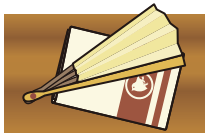
MOA美術館雲南児童作品展

子どもたちの美の心と表現力を育てることを目的に開催されているMOA美術館雲南児童作品展の入賞入選作品18点が、大東交流センターで10月3日から1週間展示されました。4日に表彰式があり、石飛市長から絵画の部3名、書写の部3名の受賞者に賞状が渡されました。MOA美術館奨励賞に加茂小4年高橋良輔君の絵画「ずっしりとした木」が選ばれ、MOA美術館全国児童作品展へ出品されます。



桂弥っこさん後援会発足記念寄席

大東町出身の弥っこさんと上方落語の代表格である桂米朝一門のみなさんによる「弥っこさんの後援会発足を記念する寄席」が10月8日から3日間、久野交流センター、大東交流センターやチェリバホール等でありました。軽快で歯切れのよい大阪弁や古典落語「時うどん」の語りやしぐさに、大入りの会場は笑いの渦に包まれました。新進気鋭の若手噺家



「桂弥っこさん」のさらなる飛躍が期待されています。



左から桂弥っこさん、桂しん吉さん、桂弥吉さん

小山和子作品展 “民族手芸MOLA”

11月6日から2週間、大東地域交流センターでMOLA (モラ) の作品約50点が展示されました。この珍しい作品展に大勢の方が来場され、作者の小山さんから約8年間をかけて制作した作品の説明や作品に対する思いが丁寧に紹介されていました。

「モラ」とはパナマの先住民クナの民族衣装をもとにした色鮮やかな手芸で、太陽や月、動物などがモチーフとなっています。小山さんが手芸に興味を持ち始めたのは叔母さんの教えからで、その後通信講座で知識や技術を高められたそうです。鮮やかな色彩と多様な図柄に元気が出ますとのこと。



北町北寿会 全国表彰受賞

全国老人クラブ連合会創立60周年記念「全国老人クラブ大会」が11月8日に東京国技館で開催され、この式典で各種表彰がありました。そのうちの全国老人クラブ連合会会長表彰で北町北寿会が優良老人クラブ表彰を受賞されました。およそ20年にわたり大東七夕祭の西瓜提灯づくりに取り組まれる一方、小学校での提灯づくり指導をされるなど、祭りのシンボルである西瓜提灯を継承発展されています。また、地域の若者とともに笹巻づくりやとんど祭などの伝統行事を受継ぎ、地域の融和に尽力され、これらが評価されたものです。おめでとうございます。



大東こども園(幼稚園)



令和5年度



園児募集

1次募集 12月1日～12月16日

2次募集 1月4日～2月10日

大東こども園【TEL・FAX 0854-43-2710】
(幼稚園)

地域の特色を活かした カリキュラムを準備しています!

大東こども園は、幼稚園と保育所の良い面を生かし、両方の役割を担う施設です。保護者の皆様の就労形態にかかわらず、子ども達の教育と保育の場として利用できます。



3学年で走る「朝マラソン」



川遊び体験



ダンスでブリッジ

(7時30分～18時まで保育を行っています)



大東小学校で学んだことは とても大切なことばかりでした

(来年5月に開校150周年を迎えるにあたって)

中町 青木 一成

昭和18年、大東国民学校(現在の大東小学校)に入学しました。すでに戦争が始まっていて、最初の授業で天皇陛下について担任の先生が話されたことをよく覚えています。午後に授業がある日は弁当を持参し、感謝の気持ちを込め、ご飯は一粒も残らないよういただきました。

勉強では国語、特に読書はとても大切なことと教えていただいたことをよく覚えています。また、各学年毎に、男子組、女子組に分かれて授業を受けたことも覚えています。

2年生になり、午前中は授業がありましたが、午後からは畑の草取り、また養蚕時期には桑畑の桑の葉を「おいこ」に入れ、農家で育てている蚕が食べる桑の葉の入れ替え作業を手伝うこともありました。養蚕時期が終わると、桑の木を切り取り、束にして小川に浸し、柔らかくなった木の皮剥ぎも経験しました。その皮は乾燥させ出雲の紡績工場に出荷。その桑の繊維と他の繊維と混ぜて学生服をつくるとのことでした。また、休憩のため午後3時ごろに「はしま」をいただきました。銀飯(麦の入っていないご飯)と味噌汁、大根漬がすごくおいしかったことが、後々の語り草となりました。

3年生となった時には、体格も丈夫になっていました。太くて長い「もうそ竹」を、二人で肩に背負って竹工場へ運んだことがありました。

このような記憶は戦争中であつたからですが、昭和20年、広島、長崎に原爆が投下され戦争は終わり、学校のしくみも大きく変わり、昭和22年には校名が大東町立大東小学校に戻りました。



駅に向かう桑皮運搬(昭和18年8月)

昭和22年に5年生となりました。現在も歌われている大切な校歌は昭和22年4月からのものです。

教科も変わり、それまであつた「剣道(男子)」や「なぎなた(女子)」などが無くなり、バレーボールやソフトボールなどの球技をするようになりました。

このほかにも小学校の時の思い出はたくさんあります。どれもこれもとても大切なことばかりで、一つとして忘れることはできません。たくさんの先輩方ががんばってこられ、大東小は来年度150周年を迎えます。長い歴史の歩みの重量感に圧倒されます。

現在の大東小学校の皆さんが、大きな声で笑い、そして身体を動かし、勉強に励み、みんなと手をつないで未知の世界に希望をもって前進していくことを心から願っています。

大東小学校の絆と伝統 未来へつなげていきます

創立150周年記念事業 ご寄付のお願い

来年5月に大東小学校創立150周年を迎えます。

記念事業実行委員会では大東小学校の新たな歩みの出発点として次の記念事業を取り組み、さらなる飛躍を目指します。ご協力よろしく願いいたします。

主な記念事業

- 創立150周年記念式典
- 創立150周年記念誌の発行
- 児童への記念品、学校への記念品ほか

寄付金の募集

- 自治会/保護者会等を通じた募金活動
(1口1,000円から)
2口以上の方に返礼品として記念誌を贈呈
- 商工会等を通じた募金活動(3,000円から)
返礼品として記念誌を贈呈

大東尋常小学校の誕生

西町 青木 愛治(元大東高校教員)

いわゆる「寺子屋」のはじまりは室町時代末期とされ、江戸時代の天保年間（1830～1844）に著しく増加して幕末には全国で16,000以上が存在し、寺子屋のない村はほとんどなかったと言われている。庶民の子弟の教育の中核を担ったこのような寺子屋式私塾・家塾は、僧侶、神職、名望家などが開設して子どもたちの教育にあたった。

『大東町誌』によれば、江戸時代末期から明治の初めにかけて、大東村には、祥雲寺、代宮家宮沢、叶屋森山、小間物屋木村、石橋屋石橋に、それぞれ寺子屋式私塾・家塾が設けられていた。

祥雲寺の寺子屋は、幕末、書家でもあった如々（によによ）上人（鸞誉和尚）によって開設され、その教えを受けた塾生は数百人に及んだという。

「学制」が公布された明治5（1872）年に、私塾・祥雲寺の教師および塾生（7～16歳）が、県が派遣した巡回教師による試験を受験して優秀な成績を残していることから察するに、祥雲寺ではかなりレベルの高い指導が行われていたようである。

「学制」により、全国が8大学区に分けられ、各大学区を32の中学区に、さらに、それぞれの中学区が210の小学区に分けられて区ごとに小学校を置くこととされた。本県は第5（後に第4）大学区、大東は第19中学区とされた。

県は明治6（1873）年、私塾・家塾を廃して公立の小学校を開校するよう指示したが、校舎建設や教員養成の追いつかない初期の小学校整備にあたっては、既存の教育施設である寺子屋が活用されることが多く、当地区では、明治6年5月20日祥雲寺本堂で「大東小学」（開校当時は「小学校」ではなく「小学」と称されており、後に「公立小学校」に改称された）が開校し、上等（4年）・下等（4年）の2科が置かれた。教員5名、児童数は108名（男子83名、女子25名）であった。明治7（1874）年10月3日に、公立大東小学校は県の巡回教師の視察を受けているが、その教育実践は、「木次・加茂・大東の三校其の冠たるもの」と極めて高く評価されている。

明治14（1881）年の小学校教則綱領の改定を受け、翌年公立大東小学校は、初等（3年）・中等（3年）・高等（2年）の3科を設置し、また、この年に専用校舎を野田原に新築した。

その後、明治19（1886）年の「小学校令」の公布にともない、小学校は尋常小学校（4年 義務教育）、高等小学校（4年）の2段階となり大東小学校（明治15年からは「大東小学校」）は「大東尋常小学校」となった。

明治25（1892）年7月15日、大東村大字田中の現在の校地に大東尋常小学校の新校舎が完工した。



祥雲寺

明治15年1月、野田に校舎が新築されるまでこの祥雲寺の本堂を校舎とされた

大東図書館だより



「たたら文化伝道師検定資料展」

について

大東図書館では、11月29日（火）まで「たたら文化伝道師検定資料展」を開催しています。令和5年1月28日（土）に「たたら文化伝道師」検定が開催されます。検定を受けてみませんか。公式教材や参考文献、鉄の歴史村博物館よりお借りした史料も展示します。

- 期 間：～11月29日（火）
- 休館日：毎週金曜日・祝日・月末
- 開館時間：10：00～18：00
- 電話：0854-43-6131





ふくま たかお
福間 崇郎さん (新庄南自治会)

「子どもの頃から痩せとって、身体も小さく何をしても動作・行動がとろくてねー、自分に自信が持てなかった。」と、しかし今では遊ぶ暇もないほど多忙で数々の役職をこなす幅広い分野でご活躍中の福間崇郎さんにお話を伺いました。

Q 今までそして今日もやっていること。

自宅の畑、主に茶畑の管理ですかね。これは小学校の「茶摘み体験授業」に茶畑を提供して喜んでいただいています。野菜作りは女房にお任せですけどね。

Q 何をしてもダメな自分とと思っていたのにやる気が出て前向きになったきっかけは？

子どもの頃、姉が歌っていた流行歌を真似て歌っていたところ友達に「福間君上手だね。」と褒められ「自分にもひとつ位良いところがあるんだ。」と自信を持てたことでしょか。

トヨタに勤めていましたが最初は整備担当で3年後から営業になり人との関わりが多くなりました。そこで学んだことは誠意と真心ですね。色々経験を積み営業所長までやりましたが上には強く云えても部下には強く云うことが出来なくてダメな所長だったのかなと思います。

不得意なことは誠心誠意をもって頭を下げて教えてもらう。成長・成功するにはこれが一番の近道だと思います。

Q 地元でもボランティア活動をされていますが…。

「新庄通学路ボランティアの会」を組織し、毎朝県道沿いの歩道や横断歩道で通学児童の見守りと挨拶運動を、また冬に積雪があるときは通学路の除雪をしたり夏休みには子どもたちのラジオ体操に参画したりしています。帰宅すると茶碗洗いが待ってますけどね。(笑)

Q 民生児童委員も経験されていますね。

これはね、私の天性だと思いました。民生委員の依頼を受けた時は「なんて私のような者が？」と思いましたが地域の皆さんの悩みごとの解決のためにお手伝いができることに生き甲斐を感じるようになり、大切な内容については妻にも内緒にしてお世話したこともありました。

ハートを尽くすと通じる。相手も心を開いてくれます。

やはり思いやりが大切ですね。

お願いされた悩みや相談が解決した時の喜びは忘れられません。

Q 大東地区福祉委員会委員長としても

今、地域福祉の重要性が叫ばれている中で大東地区の委員長の大役を仰せつかっています。

皆が健康で長生きをすることも福祉委員の大切な役目です。委員会の皆さんと知恵を出し合いながら取り組んでいます。毎週金曜日の幸運体操もその一つで私も積極的に参加しています。

健康づくりのため多くの方に参加してほしいですね。

コロナの関係で計画した事業が中止となるなどしましたが、やりたいことはまだまだ沢山あります。

Q それでは、趣味のお話を伺いましょうか。

先ず「昭和の歌」を歌おうというグループが10数年前の4月29日の「昭和の日」に結成され仲間に入りました。古代鉄歌謡館でコンサートを開き、そのたびに大勢の観客の前で一人ずつステージで歌うわけですが。最初は緊張の連続で足も震え上手く歌えなかったのですが、だんだん慣れてきてね。今では、歌うのがとても楽しみです。人前で歌うと自信もつきます。

合唱団「ミュージエコー」の団員としても練習に参加しており、腹の底から声を出すと気分も爽快になります。これも続けたいですね。

「継続は力なり。」でしょうか。

それから、俳句ですね。大東町文化協会に所属し句会では事前に作った俳句を持ち寄りお互いに研鑽し合っています。人に優しく、ロマンチックな句を目指し五・七・五に納めます。

これは認知症予防にもなり楽しんでます。俳句を始めて人生が豊かになりましたね。

毎年の年賀状にも相手の立場を考え一人ひとりに一筆加え出来る限り俳句も書くようにしています。山陰中央新報「こだま欄」にも数回投稿し、そのほとんどを紹介して頂きました。

終始優しい口調で体験談を語っていただきました。「1番が神様、2番がお客様、3番目が自分」をモットーに営業マン、また所長として経験してきたこと、金欲・名誉欲等全くなく、人生終焉の時「お前はよくやったな」と自分で自分に云ってやりたいこと。そして、「ありがとう」は云われる方より、云う方が爽やかになり、幸せになり、優しくなれるよ。」と教えていただきました。ウーン すべて人生勉強になるお話しでした。あらためて 世の中の人々がみんなシアワセになりますようにと思いました。(記、西村 武)

■令和4年10月末現在の人口・世帯数

【()内は対前々月比】

項目	雲南市	大東町	大東地区
総人口	35,899人 (-64人)	11,451人 (-16人)	3,418人 (±0人)
男性	17,313人 (-37人)	5,587人 (-11人)	1,652人 (+1人)
女性	18,586人 (-27人)	5,864人 (-5人)	1,766人 (-1人)
世帯数	13,596世帯 (-17世帯)	4,118世帯 (-4世帯)	1,272世帯 (-2世帯)
高齢化率	40.21% (±0.00%)	40.23% (+0.04%)	—

資料：雲南市HPより



ご寄付に感謝致します

大東町(東町南) 光谷由紀子様 (一般寄付)

皆様からお寄せいただいたご寄付は地域の絆を深め、支えあう活動に対する補助金等に活用させていただきます。

大東地区振興あいあい募金運営委員会 (TEL: 43-2130)